

各 位

会 社 名 株式会社ニッセンホールディングス
 代表者名 代表取締役社長 片山 利雄
 (コード番号 8248 東証・大証第一部)
 問合せ先 執行役員財務本部長 石畑 成人
 (T E L 075-682-2010)

通期業績予想の差異に関するお知らせ

平成 22 年 2 月 5 日の平成 21 年 12 月期決算発表時に開示した平成 22 年 12 月期(平成 21 年 12 月 21 日～平成 22 年 12 月 20 日)の業績予想と実績に差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 22 年 12 月期(平成 21 年 12 月 21 日～平成 22 年 12 月 20 日)の業績予想と実績の差異

(単位：百万円)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|--------------------------------|---------|-------|-------|-------|----------------|
| 前回発表予想(A) | 140,600 | 2,400 | 3,000 | 2,600 | 51.19円 |
| 今回実績(B) | 137,392 | 3,196 | 2,846 | 3,001 | 59.10円 |
| 増減額(B-A) | △3,208 | 796 | △154 | 401 | — |
| 増減率(%) | △2.3 | 33.2 | △5.1 | 15.4 | — |
| (ご参考)前期連結実績 (平成 21 年 12 月期) | 141,469 | 1,770 | 2,696 | 1,540 | 30.33円 |

2. 差異の理由と今後の見通し

当社グループの企業活動につきましては、主力事業の通販事業で、インターネット経由売上高が順調に伸長し、稼働客数も前年より増加に転じるなど、売上高は回復傾向にあるものの、現販事業における高額商品の消費低迷によるマイナス影響などにより、前回発表予想を若干下回りました。

一方で、各事業におけるコスト削減活動などの継続的な収益構造改革により、営業利益は前回予想を大幅に上回りました。また、金融事業の持分法適用会社において繰延税金資産の取崩しによる持分法投資損失の影響が大きく、経常利益は前回予想よりも若干下回ったものの、事業整理損失引当金の戻入額等により、当期純利益につきましては大きく上回ることになりました。

以上により、連結業績数値につきましては、前回発表予想より売上高は 3,208 百万円の減少、営業利益は 796 百万円の増加、経常利益は 154 百万円の減少、当期純利益は 401 百万円の増加となりました。

(注) 上記に記載した予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績については当社及び当社グループをとりまく様々な要因により、記述されている業績予想とは異なる可能性があります。

以上